

第二幕第一場

シラノ、ル・ブレ、ロクサーヌ登場。

ル・ブレ、おもむろに、ウクレレを弾き出す。

ロクサーヌ、踊ってあげる。

ル・ブレ、弾き終わって、一礼。シラノとロクサーヌ、拍手。

ル・ブレ 一曲やってこいって座長に言われたから。

シラノ そのあいだに着替えるんだって。

ロクサーヌ えー、あたしたち、この（格好の）ままなのに？ なんかズルくない？

シラノ 座長の職権乱用だな。

ル・ブレ だな。

三人、舞台袖を見やるが――

シラノ にしても、来ないね。

ロクサーヌ&ル・ブレ うん。

ロクサーヌ ね、ね、座長、ものすごい格好になって出てきたらどうしよう？

シラノ ものすごいって？

ロクサーヌ （わくわく）ほら、もう、人間じゃないとか。

ル・ブレ それはないでしょ。

シラノ ないない。うちの劇団、そんな予算ない。

ロクサーヌ そっか。

三人 ……

シラノ にしても、来ないね。

ロクサーヌ&ル・ブレ うん。

シラノ ほっといて、先、行っちゃおう？

ロクサーヌ 行っちゃお行っちゃお。ル・ブレさんからだよ。

ル・ブレ あ、おれか。

（居ずまいを正し、観客に向かって）さて、物語はいよいよ、新たな展開を迎えるわけですが、……

突然、獅子舞の獅子、登場。ひとしきり舞う。

舞い終わって獅子頭をとると、ラグノー。一礼する。

三人 ……

ラグノー （にこにこと）あ、どうか、お気になさらず。

三人 気になるよ。

ラグノー （にこにこと）わたし、目立とうとかじゃましようとか、そういうつもりは、ぜんぜん……

三人 あるでしょ。

#08 「なんとなくなんとなく」

シラノ、ポケットなどに本を持っている。

#04 「スペイン」（ピアノソロ）

シラノ だけどこれ（獅子頭）、いいね。楽しい。

ラグノー でしょ？

シラノ うち（の劇団）にこんなのあったんだ？

ラグノー いえ、レンタルです。

シラノ レンタルなんだ。

ラグノー レンタルです。

ロクサーヌ ね、ね、さわってもいい？

ラグノー いいですけど、気をつけてくださいね。噛まれるかもしれませんから。

ロクサーヌ ウソ？！

ラグノー ウソです。

ロクサーヌ ……

ラグノー （にこにこル・ブレに）ささ、つづきを、どうぞ！

ル・ブレ どこまでいったのか、忘れちゃったよ。

ラグノー 「さて、物語はいよいよ、新たな展開を迎えるわけですが」、までです。はい、どうぞ！

ル・ブレ えー、わけですが、えー……（動揺から抜け出せないでいる）

ラグノー 「その前に、17世紀に生きた実在のシラノ・ド・ベルジュラック君が、いったいどんな人だったのか、てみじかにご紹介しておきましょう」、です。はい、どうぞ！

ル・ブレ えー、本物のシラノ君が、どんな人だったかという、……

ラグノー 「一言で言って」！

ル・ブレ 一言で言って、……

ラグノー 「はた迷惑な人でした」！（獅子頭を鳴らす）

ル・ブレ おれに言わせてよ！

（観客に向かって）えー、本物のシラノくんがどんな人だったかという、一言で言って、はた迷惑な人でした。

親友のわたしが言うんだから、まちがいありません。

ロクサーヌ そうなの？

シラノ まあね。

ル・ブレ とにかく危ないことばかりする人でした。えー、えー、……

ラグノー 百人の敵を相手に決闘したり、戦争に行って二度も死にかけたり、帰ってくれば帰ってきたで、尊敬する哲学者ガッサンディ先生のところへ押しかけて、剣でおどして無理やり弟子にしてもらったり、あげくに時の権力者マザラン宰相をこきおろす詩を書いたり。

シラノ 「バーカバーカ、マザランのバーカ、おまえのかーちゃんべそー。」

ラグノー フロンドの乱というのが起こってマザランを倒しかけると、今度はフロンド派のほうをののしったり。

シラノ 「バーカバーカ、反乱軍のバーカ、もったいないから手でふいたー。」

ラグノー 節操がなさすぎました。

シラノ そんなことないよ、勝ち組をおちよくるって点で首尾一貫してた。

ラグノー ですね！ さすがシラノ先生！（ル・ブレに）だそうです。

ル・ブレ いや、あの、……

ラグノー (シラノに) でも、おかげでろくな死に方しなかったんですね、先生。

シラノ (あっさり) まあ暗殺だな、あれは。

ロクサーヌ 暗殺?!

シラノ&ル・ブレ&ラグノー (あっさり) そう。

ロクサーヌ 聞いてないよ、そんな話……

ラグノー (にこにこ) 権力にたてつくろくなことにならないっていう、いい見本
ですね、先生!

シラノ そう。ここで一言! 長いものには…… (獅子頭に向かって頭をさし出す)

ラグノー 噛まれろー! (獅子頭でシラノを噛む)

シラノ&ラグノー ひゃー! (と喜んでいる)

ル・ブレ (観客に向かって) ね、わかるでしょ、(シラノとラグノーを指して) こうい
う……。わたしなんて、一生、尻ぬぐいばっかりの人生ですよ。

ロクサーヌ そうなのです。ル・ブレさんは、シラノさん亡き後は剣を捨てて修道院に
入り、彼の遺した原稿を整理し、検閲の目をくぐってなんとか出版までこぎつけるこ
とになるのです。(十字を切り、手を合わせる) アーメン。

ル・ブレ (つられて十字を切り、手を合わせる) ア、アーメン。

ロクサーヌ だよな?

ル・ブレ うん。(シラノに) なんか、おれの台詞、すごく減った。

シラノ 大丈夫。まだいっぱいあるから。

ラグノー だけどこれ、いま全部言っちゃってよかったんですか?

シラノ 大丈夫。うまくいかなかったら、座長のせいだから。

全員、納得。

ロクサーヌ で、次、何?

シラノ おれがおれの本を読む。

ロクサーヌ あ、そうか。それで?

シラノ みんなで月に行く。

ロクサーヌ どうやって?

シラノ 「月に来たぞ!」って言えばいいの。

ロクサーヌ そんなお手軽でいいの??

シラノ 大丈夫。大事なものは、気合いだから。

全員、納得。

シラノ じゃ、せーの、

四人 月に来たぞ〜!! (ラグノー、獅子頭を鳴らす)

ロクサーヌ やっぱり納得いかない。なんて言うかもうちよっと、ひねりがほしいじゃ
ない? めっちゃめっちゃスーパースペシャルな乗り物に乗ってきちゃうとかさ。

シラノ ああ、乗り物ね。

ロクサーヌ (いきおい込んで) あるの?

ラグノー (獅子頭を示し) これですか？

シラノ&ル・ブレ&ロクサーヌ 無理。

シラノ まあ、乗り物っていうかね。

ロクサーヌ 何、何？

音楽。

シラノ (語り) おれが考えたのはね。

シラノ (歌う) 腰に瓶をたんと ぶらさげてね

朝もやをたっぷり入れたら

蒸発でふわりふわふわ

ロクサーヌ&ル・ブレ&ラグノー (歌う) あ〜あ あ〜あ どうせそうでしょう

シラノ (語り) もうひとつ考えたのはね。

シラノ (歌う) 鉄の玉でかいの ポイツと投げて

磁石にまたがってピタッと吸いつく

またポイツと投げてまたピタッと吸いつく

ロクサーヌ&ル・ブレ&ラグノー (歌う) あ〜あ あ〜あ どうせそうでしょう

シラノ あとね、右足を出して、右足が地面に着く前に左足を出して――

ロクサーヌ はいはい、わかったわかった。

シラノ ――というところで、月の神さまが登場するはずなんだけど。

ロクサーヌ 月の神さまって誰。(四人、台本をめくる)

ル・ブレ あ、おれだ。え、おれか？！

ロクサーヌ わあ、着替えなきゃ！

ル・ブレ (シラノに) ちょっと先読んで。そのあいだに着替えるから。

シラノ えー？

ル・ブレとロクサーヌ、大慌てで退場。ラグノーは助手から本を受け取って、シラノに渡す。

シラノ (観客に) すみません、やや、手順がややわやわやですが……、まあ、では、失礼して、わたくしシラノ・ド・ベルジュラックの書きました『別世界 あるいは月への旅行記』より。(音楽)

(読む)「まず第一に、常識的に考えて、太陽は当然宇宙の中心にあるといえます。というも、あの大きな光る物体が、自分にとって何の役にも立たない一点のような地球のまわりを回転すると思うのは、あぶったひばりを見て、あれは暖炉に鳥のまわりを回転させて焼いたのだと思うのと同じくらい滑稽なことではありませんか」。

ラグノー さすが先生、うまいこと言いますね！

獅子頭、退場。

#09 「月への行き方」…

シャブリエ「島の岸辺で」

助手が急いで台本を持ってくる。

#09 シャブリエ「島の岸辺で」前奏のみ

シラノ まあね。(観客に) でもね、今じゃ常識かもしれないけど、わたしの時代にこんなこと言ったら、へたすりゃひばりといっしょに火あぶりですよ。われながら大変なことを書いたもんだと思いますよ。

ラグノー ま、やや調子に乗ってたんですね。

シラノ おまえが言うか。

などと言っているうちに、ル・ブレの着替えが終わる。

ロクサーヌ お待たせー。できたよー。

ル・ブレ登場、星の王子さまになっている。ただし、ビッグサイズ。

ロクサーヌ (にこにこと) 星の王子さまー。

シラノ ……月の神さまじゃなかったの？

ル・ブレ なんか、着たら、こうなった。

シラノ これぜったい確信犯だろう、座長！

ロクサーヌ かわいいよー！

ラグノー ですねー！

シラノ まあ、いいか、このさい。

ロクサーヌ ね、ね、あたし、バラの花やりたい！

ラグノー じゃ、わたし、キツネやります。

シラノ じゃ、おれ、ウワバミやる。で、座長はあれだな、ウワバミに飲まれるゾウの役。

ロクサーヌ わあ、ぴったり！

などと言っているところへ、座長=ケプラー、登場。

シラノたちより一世代古い服装(大きな襟)。手にギロを持っている。

ケプラー (皆の注意を引くためにギロをひとしきり鳴らしてから、おもむろに)

大切なことは、目に見えない。

ケプラーです。

間。

ロクサーヌ 誰。

ケプラー ケプラーです。姓はケプラー、名はヨハネス。専門は天文学と占星術、星占いです。(客席に) どなたかご自分の運勢を占ってほしいという方、おられますか？ わたしの星占いはね、よく当たるんですよ、金運・結婚運・仕事運、何時何分に死ぬかまで。ええ、どなたかいませんか、いませんか、(たとえ客席から反応があっても無視して) いませんね、じゃ次行きましょう。

ロクサーヌ だから誰。

ケプラー これはこれはシラノさん、こないだはどうも。

シラノ あ、ケプラーさんすいません、あの時お借りした10ユーロ……

ケプラー いいんですいいんです、あるとき払いのさいそくなしで。

ロクサーヌ 友だちなのか？

シラノ そ。

ケプラー わたしたち「地球は回ってるって言っちゃったために一生棒にふったヒト同盟」のメンバーなんです。会長はガリレイさん。

ロクサーヌ ガリレイさんは呼ばなかったのか？

シラノ&ケプラー (手を横に振って) ないないない。

シラノ あの人は来ないよ。

ケプラー いつもお忙しそうですからねえ。

シラノ そうじゃなくて、自分の得にならない場所にはいっさい顔出さない人なんだよ。いるでしょ、そういう人。

全員 (手を縦に振って) いるいるいる。

ロクサーヌ だけどガリレイさんってそうなの？ なんだかがっかり。「権力に抵抗して、真実のために闘った英雄！」っていうイメージだったのに。

シラノ&ケプラー (手を横に振って) ないないない。

シラノ あれはあの人の自己プロデュースだから。うまいよね、都合の悪いことは全部隠して、弟子に「ガリレイ万歳！」な伝記書かせて。

ケプラー (しみじみと) わたしにはそんな弟子いませんでしたからねえ。

ラグノー (シラノに) 先生にはわたしがいますから、大丈夫です。

シラノ 何が？

ル・ブレ おれもいるよ。

ラグノー そうそう、ル・ブレさんが全部隠してくれますよ、都合の悪いこと。

シラノ でも、おれから「都合の悪いこと」取ったら、何もなくなっちゃうよ。

ラグノー あー、たしかに。

シラノ そこは否定してくれないかな。

ケプラー (しみじみと) シラノさん、うらやましいです。こんなにいいお友だちに囲まれて、しかも、物語の主人公で。(ほろりとする)

ロクサーヌ (いそいで) ケプラーさんだって有名人でしょ？ ケプラーさんが主人公のお話とか、ないの？

ケプラー (泣く) ないんです。ぜんぜん、ないの。ガリレイさんなんか見てください、超~人気者でしょ、もうあっちこっちで映画とか、ドラマとか、モンスターとか。わたしのことなんて、だあ~れも出してくれない。21世紀になってやっと劇作家の篠原公美子先生が『ケプラーあこがれの星海航路』っていう音楽劇にしてくださったんです。

モンスターストライク、
だそうです。

シラノ よその芝居の宣伝してどうするの。そういうオタンチンでお調子者のところも、おれと共通してるよね。だいたい、ガリレイさんのヒーロー化に一役 [ひとやく] 買ったの、あんたじゃないか。

ケプラー わたしが？

シラノ (他の三人に) この人はね、自分の身の危険もかえりみず、ガリレイが本を出してすぐに絶賛と激励の手紙を送ったんだよ。

ケプラー (ギロを鳴らして) ガリレイ、エライ! ガリレイ、チャチャチャ、ってね。

ロクサーヌ で?

シラノ ガリレイのやつはその手紙を「ほらーっ」ってヨーロッパじゅうに見せびらかしておいて、ケプラーさん本人に対しては、お礼のハガキ一枚よこさなかったの。

ル・ブレ この時代にまだハガキはないよ。

シラノ あ、そうか。ともかく、なしのつぶてだったんだよ。

ケプラー (しみじみと) ほぼ完全にスルーでしたねえ。

ロクサーヌ ガリレイ、感じわるー。

ケプラー (真剣に) あんまり次から次へと質問を書いて出したのがいけなかったんでしょうか。

ラグノー 暑苦しいと思われたんですかね。

シラノ (ケプラーを指し) こういう人いるよね。

全員 (手を縦に振って) いるいるいる!

ケプラー自身も振る。

ケプラー (熱心に) そうだ、わたしたち「熱烈な手紙を書きまくったけれど一生報われなかったヒト同盟」も結成しましょうか、シラノさん!

ロクサーヌ え、そこつながり?

シラノ そうじゃなくて、

ケプラー あ、それよりあれですね、「調子に乗って月に行った話なんか書きちゃったためにドツポにはまったヒト同盟」ですね!

ル・ブレ そうなの?

シラノ そうなの。おれは教会の恨みを買って追いまわされるし、この人は魔女裁判に巻きこまれてさんざんの目に遭っちゃうの。

このあたりで助手も出てくる。

ラグノー ケプラーは天才 ケプラーはえらい

助手 でも誰にもみとめてもらえない

全員 ラン・ラン・ラン・ララ・ラ・タ・タン

#09 「ケプラーのうた」
…セヴラック「カトリーヌの酒」

ル・ブレ 応援したのに 無視 [シカト] されたよ

ロクサーヌ あの世渡り上手なガリレイに

全員 ラン・ラン・ラン・ララ・ラ・タ・タン

ケプラー シラノと同じで 生涯びんぼう

シラノ 日の目を見ないうちに死んじゃった

全員 ラン・ラン・ラン・ララ・ラ・タ・タン

ケプラー (ル・ブレに) いやー、それにしてもなつかしいな。おひさしぶりです。こんなところでお会いできるなんて。

ル・ブレ え?

ケプラー 覚えてらっしゃいませんか、わたしのこと。あなた、月の精霊さんでしょう?

ル・ブレ (ロクサーヌに) そうなの?

ロクサーヌ (ケプラーに) 星の王子さまよ。

ケプラー 星の王子さま？！

ル・ブレ そうみたい。

ケプラー わたしはてっきり、月の精霊さんかと。それにしても、そっくりだ。

シラノ こういう人がもうひとりいるの？

ラグノー そこ、驚くところじゃないでしょ。

ケプラー わたしね、こういう精霊さんに、月に連れてきてもらったんです。

ル・ブレ改め月の精霊 へえー、もしかして、こんな感じ？

音楽。ケプラー、月の精霊につかまって空を飛ぶ。

#11 リスト「ハンガリア

狂詩曲2番」後半より

ケプラー (大まじめに) これだと、地球から月まで、だいたい4時間20分25秒なんですよ！

月の精霊 細かいね！

ケプラー (大まじめに) 途中、空気が薄いから、濡らしたスポンジでしっかり鼻を押さえておくといいんです！

月の精霊 そうなんだ！

ケプラー (大まじめに) 冗談です。

全員、こける。ピアニストもこける。

ケプラー (ピアニストに) 大丈夫ですか？ (依然としてまじめに) それで、月に着くと、日なたはものすごく暑くて日かげはものすごく寒いから——

シラノ お、ちゃんと科学的。

ケプラー (得意げに) 科学者ですから！ でね、住んでるのはほとんどが平ぺっちゃいヘビで、昼間は穴ぼこに隠れていて、夜に出てくるんです。

ロクサーヌ えー、ヘビ！ やだ、そんなの！

ケプラー (困って) でもあの環境じゃ、うさぎさんやかぐや姫が住むのは無理ですよ？

ロクサーヌ 無理でもいいの。だってつまんない！

シラノ おれのお月さまはもっと楽しいよ。お花がいっぱい咲いててね、風はそよそよ、小鳥もピチュピチュ。

ロクサーヌ わあ、そっちのほうがいい！

シラノ (本を取り出して読む)「月面にはバラやスマレ、ヒナギクやキンポウゲが咲き誇り、甘い香りがあたりに満ち満ちていた。泉の水が銀の泡を立てて流れ、小川となって、玉砂利に旅の話をして聞かせる。小鳥たちの歌声は、まるで森の木の葉の一つ一つがさえずっているかのようだ。

さて、わたしはというと、わたしの墜落でこっぴみじんになった三、四本の太い枝にはさまれて身動きもできず、顔は当たってつぶれたりんごの実で濡れていた。その汁が口に入ると、わたしの顔には血の気が戻り、髪の毛も古いのが抜け落ちて新しいのが生えてきた。ようするにわたしは、およそ14歳ほど若返ったのである」。

全員 (ほおー、と感心し、拍手)

シラノ これ、おれが月に着いたときの話。

ケプラー 14歳若返ったということは、何歳になったんですかね。

ロクサーヌ そこは別によくない？

ラグノー それより、月に着陸するとき、りんごの木に激突ってというのが先生らしいですね。

シラノ まあね。

ル・ブレ 花が咲いてて、鳥が鳴いてて、りんごの木があるなんて、ほとんどエデンの園じゃない。

シラノ エデンの園だもん。

全員 えー？！

シラノ 知らないの？ エデンの園は月にあったんだよ。おれね、ひゅーっと飛んでって、りんごの木に激突して、そのはずみで、ぱくっとりんごを食べちゃったの。

ロクサーヌ そのりんごの実って、まさか、知恵の木の実？

ラグノー 先生、賢くなっちゃったんですか？

シラノ そこなんだよ。あのりんごはね、中身を食べると賢くなるんだけど、皮まで食べると、バカになっちゃうんだよね。

全員 え。

シラノ だからおれはこんなにバカになっちゃったし、アダムもイブもバカになっちゃって、人類もみんなそれ以来バカやってるわけよ。

シラノ お月さんよいとこ 一度はおいでよ
りんごの木もあるよ

全員 あー そりゃええわ あー そりゃええわ

シラノ アダムだって食べた イブもやっぱり食べた
りんごの実を食べた

全員 あー そりゃええわ あー そりゃええわ

シラノ バカになったアダム バカになったイブ
バカになった人類

全員 あー そりゃええわ あー そりゃええわ

ロクサーヌ だけどこんなこと大きな声で言っちゃって、大丈夫だったの？

シラノ 大丈夫じゃなかったって言ったじゃない、教会にいらまれて大変だったって。

ケプラー 命を賭けたボケですね、シラノさん！

シラノ あんたに言われたくないよ。——まあ、おれの月旅行もオハナシなら、エデンの園もオハナシだし、太陽が回ってるのも地球が回ってるのもそれぞれひとつのオハナシなわけよ。あとはどれを信じるか、というより、どれがいちばんしっくりくるか、納得できるかっていうだけだね。おれ、バカのフリして今すぐいいこと言ってるよ。

間。

ケプラー (ギロを鳴らして) 次、行きましょう！

#12 お月さまとりんごの木…セヴラック「花嫁の一週間」

ラグノー これ（ギロ）便利ですね。

ケプラー ほしい？

ラグノー はい！

ケプラー あげない。

ラグノー えー！

ル・ブレ （シラノに）月にも何かこういう、便利なグッズとかなかったの。

シラノ 便利グッズねえ。（ちょっと考えて）あ、そうそう。月の本はね、目で読むんじゃないの。耳で聞くの。

全員 耳で聞く？

シラノ そう。これくらいの大きさの（懐中時計くらいの大きさを示す）、でっかいダイヤモンドや真珠をふたつに割ってできてね、ぜんまいを巻いて、聞きたい個所にこう（指を当て）針を当てて、耳にぶらさげて聞くんだ。だから、歩いてても、馬に乗ってても読書ができて、しかもいっぺんに30冊くらいポケットに入れて持ち歩ける。

ケプラー それって——今のオーディオブックとか、電子書籍の発想ですよ！

ロクサーヌ もっとすごいよ。だってダイヤや真珠でしょ！

ラグノー それ1600年代に思いついてたって、やっぱり、さすがは先生ですね！

ル・ブレ 日本で言うと、江戸時代のはじめだからねえ。平賀源内より百年早いね。

シラノ （得意げ）まあね。あ、あとね、動く家っていうのもあるよ。

全員 動く家？

シラノ そう。ふいごで動くの。

月の家にはね、「移動式」と「固定式」があって、移動式のほうは車輪付きで、冬になると帆を上げて、町ごと暖かいほうへ引っ越すんだ。

固定式のほうは、中心に歯車付きの軸が通ってて、寒くなるとこう（手で示す）ぐるぐるっと地下に下ろして、ぬくぬく。で、春になるとまたぐるぐるっと地上に戻して、（春を感じるふうに）ふー、きらきら、ってね。

全員 （ほおー、と感心）

ロクサーヌ それはさすがに、まだ実現してないよね。

ラグノー 実現したら、エネルギー問題、一気に解決しますかね？！

ル・ブレ しないとは思うけど、楽しいね。

ケプラー （わくわく）わたし、ちょっと計算してみましようか？

ロクサーヌ 計算、好きなんだ。

ケプラー はい、もう、大好物です！！ まずは角速度、すなわち動径が向く角度の時間変化量をですね……

ラグノー （ケプラーのギロを奪って鳴らし）はい、次、行きましょう！

音楽。

第二幕第二場

助手がルーレット板を運んでくる。

#11 リスト「ハンガリア
狂詩曲2番」後半より

シラノ あ、来た来た。ご苦労さん。

ロクサーヌ これ、何？

シラノ 今度はおれの、太陽旅行の巻。これも楽しいお話がてんこ盛りだから、どれにするか、ルーレットで決めるの。

ケプラー ルーレット！ いいですねえ。ちょっとこの角度（扇形の内角）、計らせていただけますか？ そこから確率を計算して……

ラグノー（ケプラーを舞台の端に連れて行き）いない人。いない人。

ケプラー えー！

ロクサーヌ でも、いつ、太陽に来たんだっけ？

シラノ しまった、まだ来てなかったか。みんなー、ちょっとここ来て並んでー。

シラノ、ロクサーヌ、ル・ブレ、ラグノー、一列に並ぶ。

ケプラーも戻ってきて並ぶ。

助手とピアニストも並ぶ。

シラノ おれの合図で、大きく一步、よいしょ！ってこっちへ動いてね。

全員 はい。

シラノ じゃ、せーの、

全員 よいしょ！

シラノ はい、太陽に来ましたー。

全員 おおー！

というわけで、皆、ルーレットのまわりに集まる。

シラノ じゃ、これから、どのお話をやるか、ルーレットで決めたいと思います。

全員（拍手）

シラノ エピソード1 [ワン]、「火の竜サラマンドルと氷の竜レモラの死闘」。

ロクサーヌ（手を挙げる）はいはいはい、あたし、それがいい！

ラグノー（手を挙げる）わたしも！

ル・ブレ ルーレットだから。多数決じゃないから。

シラノ エピソード2 [ツー]、「鳥の裁判」。おもしろいよー。

ロクサーヌ&ラグノー しーん。（と口に出して言う）

シラノ（誘導するように）おもしろいよー。すっごくおもしろいよー。

ル・ブレ とりあえず、全部読んだら？

シラノ そだね。エピソード3 [スリー]、「愛しあう双子の樹」。R16 [アールシックスティーン]。

ル・ブレ 16禁はまずいでしょ。

シラノ やっぱり？ じゃ、エピソード4 [フォー]、「黒点から生まれた黒点人」。

ロクサーヌ&ラグノー 黒点人？

シラノ そう。太陽の黒点がね、空中にぶにゆぶにゆーって浮いてて、そのぶにゆぶにゆから真っ黒な小人がぐにゆぐにゆーって出てきて……

ロクサーヌ (ラグノーに) なんか、ばっちい。

ラグノー (ロクサーヌに) ですよ。

ケプラー (手を挙げる) わたし、それがいいです！

ロクサーヌ&ラグノー なんで？！

ル・ブレ だから、ルーレットだから。多数決じゃないから。

シラノ じゃ、ルーレット回すよ。行くよー。だーだん、だーだん、(と口で言いつつ、ルーレットを手で回す) だだーん！(針は「エピソード1」を指しているが、自分で微妙にずらして) だん、だん。はい、エピソード2、鳥の裁判に決定！

ロクサーヌ&ラグノー&ケプラー えー？！

ロクサーヌ レモラっていうの見たかったのに。

ラグノー ですよ。

ロクサーヌ&ラグノー (抗議の手拍子) レーモラ、レーモラ、レーモラ、レーモラ！

ケプラー 黒点人はなしですか？

他の四人 なし。

シラノ じゃ、こうしよう。はじめにレモラとサラマンドルやって、それから鳥の裁判。

ル・ブレ 鳥の裁判、どうしてもやりたいのね。

シラノ うん。

ル・ブレ じゃ、ルーレットにする意味なかったじゃない……(ルーレットを片づける。助手も手伝う)

ケプラー あ、待ってください。ちょっとこの角度計らせて……

ル・ブレ (ルーレットを助手にまかせ、ケプラーを押していく) いない人。いない人。

ケプラー えー！

ル・ブレ、シラノたちのところへ戻る。ケプラーも戻るすきをうかがっている。

ロクサーヌ (シラノに) ね、ね、レモラって、どんな形なの？

シラノ それがねー。よくわからないんだよね。だから、テキトーに見つুকろった。

ロクサーヌ&ラグノー はい？

ラグノー サラマンドルは、あれですよ、とかげみたいなやつですよ。

シラノ うん、そうなんだけど、とかげ、作る時間がなかったんだ。

ロクサーヌ&ラグノー はい？？

助手がサラマンドルとレモラ、その他を運んでくる。

シラノ あ、来た来た。ご苦労さん。(皆に見せる) はい、これ、サラマンドル。

獅子頭である。

シラノ ほら、せっかくレンタルしたんだから、目いっぱい使わないとね。

ラグノー ……ってことは、やっぱりわたしがサラマンドルですか！

シラノ そゆこと。

ラグノー やったー！（大喜び）

ロクサーヌ レモラは？

シラノ レモラは、これ。

獬である。（ちっちゃい）

ロクサーヌ 獬？

シラノ 獬。

シラノ、ル・ブレの頭に、獬を乗せる。

ロクサーヌ かわいいー！（大喜び）

シラノ でしょ？

ル・ブレ おれ、これで闘うの？

シラノ そゆこと。

ル・ブレ 無理でしょ。

シラノ 大丈夫。レモラは何もしなくていいの。

ル・ブレ そうなの？

シラノ いいか、サラマンドルっていうのは、山火事や爆発や、いまだったら地球温暖化だな、つまり、人間の起こした災害の象徴なんだ。そのサラマンドルの炎が、レモラの氷に、ありとあらゆる技で攻撃をしかける。ところが、レモラは何もしない。最後に一発、大～きなくしゃみをするだけなんだ。それで、レモラの勝ち。

全員 （へえー、と感心）

ケプラー なんだかひじょうに象徴的ですね。（いつのまにか戻ってきている）

ロクサーヌ レモラは何の象徴なの？

シラノ それは、……特にない。

全員 （こける）

シラノ あ、そうだ。（助手の運んできた中から二体の人形を取り出し）はい。はい。（とロクサーヌとケプラーに渡す）

ロクサーヌに渡されたのがアザラシ（白）、ケプラーがシロクマである。

ロクサーヌ これ、何？

シラノ レモラの応援団。これで応援してて。

ロクサーヌ&ケプラー わーい！（大喜び）

シラノ じゃ、行くよ。エピソード1、サラマンドルとレモラの死闘の巻！

サラマンドル＝獅子＝ラグノーと、レモラ＝獬＝ル・ブレ、位置に着く。

シラノ 見合って見合って。はっけよーい……

ル・ブレ へっくし！（くしゃみ）

参考：シアターユニット・サラ第11回公演『獬を飼う』

参考：サラといっしょのクリスマス『ゲンリーとベンリーのあおいとり』（シロクマ＝ゲンリー、アザラシ＝ベンリー）

サラマンドル、倒れる。

全員 ……

ル・ブレ ごめん。だって、出ちゃったんだもん。

ロクサーヌ やりなおし。

シラノ よーし、見合って見合って。はっけよーい……のこった！

音楽。アザラシ＝ロクサーヌとシロクマ＝ケプラー、かわいく応援している。

サラマンドル、レモラに猛攻撃をしかける。

レモラ動じず、最後の一発、大きなくしゃみ。

#11 リスト「ハンガリア
狂詩曲2番」後半より

ル・ブレ はーっくしょい！

サラマンドル、倒れる。みんな大喝采。

ル・ブレ （糞をはずしながら）おれ、星の王子さまなのかと思ってた。

ロクサーヌ 気にしない、気にしない。

ル・ブレ 気になるよ……

シラノ はい、ではつづいてエピソード2、鳥の裁判いってみよう！

獅子頭はラグノーが、糞
とシロクマとアザラシは
助手が片づける。

ところが、何も起こらない。

シラノ （助手に）ぎっちゃんー。

助手 （あわてて）はい！

助手、急いで舞台裏へ。

ケプラー 鳥の裁判っていうのは、何なんですか？

シラノ うん、太陽に、鳥たちだけの王国があるんだね。そこへまぎれこんだおれは、鳥たちにつかまって、怪しいやつだというんで、裁判にかけられちゃうんだ。

（本を読む）「一羽がわたしの耳もとでぴーぴーさえずるかと思うと、また一羽は頭の上をぐるぐる飛び回る。気がつくと、私の両腕にあらゆる種類の鳥が百万羽以上もつかまって重くのしかかり、わたしは身動きがとれなくなっていた。そこへ四羽のオオワシがやってきて、二羽がわたしの両腕を、二羽が両脚をつかみ、わたしを高々と持ち上げた……」

助手が鳥たちの衣装を持ってくる。

シラノ （読む）「わたしは群衆の中に一羽のかささぎを見つけた」。（ロクサーヌを招く）

ロクサーヌ え、あたし？

ロクサーヌ、かささぎの羽を装着する。

シラノ (読む)「彼女の叫びを聞くと、へたに動く目をつぶされるから、抵抗しては
いけない!ということだった」。

ロクサーヌ=かささぎ ぱたぱた。ぱたぱた。(羽ばたく)

他の者たちもそれぞれの羽を装着する。(ピアニストと助手も装着する。)

シラノ 他の鳥たちは口々にわめいていた。「人間だ! 人間だ! 羽も毛もないつるつるの生き物、くちばしも爪もないみじめな生き物、砂糖と砒素の区別もつかず、パセリだと思って毒ニンジンを読みこんでしまうバカなやつ、それなのに、すべてが自分のために作られていると信じている、われわれを絶滅に追いやろうとしている、あの、人間だ!」

ロクサーヌ以外の全員 人間だ! 人間だ!

ロクサーヌ=かささぎ (シラノに) 人間でないふりをするのです!

シラノ 人間でないふり?

ロクサーヌ=かささぎ 何か別の生き物のふりをするの。でないと、殺されちゃうわ!

シラノ ありがとう、かささぎ君。きみだけは、なぜ、ぼくに優しいんだい?

ロクサーヌ=かささぎ わたし、昔、人間さんに、おいしいチーズをもらったことがあるの。

シラノ チーズ?

ロクサーヌ=かささぎ カマンベールよ。

シラノ はあ……

ロクサーヌ=かささぎ チーかまだったかも。

シラノ ……

ロクサーヌ=かささぎ いいわ、いまはそんなこと、どうでもよろしくってよ! とにかく、人間でないふりをなさい!

シラノ わかった。ありがとう、かささぎ君!

(鳥たちに) 皆さん! どうか聞いてください。わたしは、いやしい、きたない、極悪非道の人間などではありません。わたしは、わたしは、……猿なのです!

全員 猿?

シラノ ええ、こう見えても、りっぱな猿なのです。じつは、おさない頃に町の奥に捨てられて、人間どもに育てられたために、悲しいかな、人間のことばが話せるようになってしまったのです。(泣きまね) 本当です。どうか専門家に調べてもらってください。(服を脱ぎ始める) その上でわたしが人間であると判明したら、怪物として殺されても異存はありません!

ル・ブレ=鳩 (周りの者に) おい、あんなことを言っているぞ。どうする?

ロクサーヌ=かささぎ きっとそうなのよ。あのひとは、猿なのよ!

シラノとケプラー以外の全員 猿だ! 猿だ!

ケプラー=極楽鳥 ちょっと待った! 裁判長、わたしに質問させてください。

シラノとケプラー以外の全員 裁判長？

シラノ 裁判長は、王さま。王さまは、鳩さん。

ル・ブレ=鳩 あ、おれだ。え、おれか？！

ラグノー=おうむ 鳩がいちばんえらいんですか？

シラノ そう。鳥の王国では、いちばんちっちゃくて、いちばん弱っちいのが、いちばんえらいの。

ル・ブレ=鳩 それが、おれなの……？（複雑）

シラノ つまり、いちばん優しく、いちばん平和を愛するひとね。そういうひとが国を治めれば、戦争は起こらないでしょう？

ル・ブレ=鳩 なるほどね。（納得）

ケプラー=極楽鳥 （ル・ブレ=鳩に）では改めて、陛下、質問させていただきます。（シラノに）猿よ、おまえは、風呂が好きだな？

シラノ （うっかり）好きです。

ケプラー=極楽鳥 （勝ち誇って）裁判長！ 被告はウソをついています。被告は人間です。猿は、風呂に入りません！

シラノ 入ります、入ります！ 群馬県出身の猿は入るんです。

ケプラー=極楽鳥 フランス人だろう！

シラノ 群馬県出身のフランス人なの！（うっかり）

ケプラー=極楽鳥 （勝ち誇って）ほーら、人間じゃないか！

シラノ フランス人だって風呂に入らないもん！（がんばる）

ロクサーヌ=かささぎ （ラグノーに）もう、わやわや。

ラグノー=おうむ （ロクサーヌに）ですね。

ル・ブレ=鳩 （王さまらしく）しかし、人間だというだけで死刑にするのは、さすがに少し、乱暴ではないか？

ケプラー=極楽鳥 そのことでしたら、陛下、ここにお目どおりを願う者がございます。

ケプラー=極楽鳥、助手=やまうずらを引っばってくる。

ケプラー=極楽鳥 諸君、この者は、名をやまうずら・ぼちゃ子と申しまして、最近地球世界から到着した者であります。人間どもに射こまれた鉛玉によって、いまだにのどに風穴が開いておまして、人類に対する告訴、したがってまたこの人類という一大団体の一員であるとわたくしが主張するところの（シラノを指し）かの動物に対する告訴の原告になっておるのであります。ごらんとおあいにくとしゃべれませんで、わたくしが代わって申し立てをいたします。

助手=やまうずら、ばたばたする。

ケプラー=極楽鳥 このぼちゃ子くんは気の毒にも、見た目がおいしそうだという、ただそれだけの理由で、あわや人間どもに丸焼きのパイにされかけたのであります。

シラノ 異議あり！ それは、自業自得というものです。ぼちゃ子くんはこのところ、おやつを食べすぎました。

ル・ブレ=鳩 異議を認めません。

シラノ えー！

ケプラー=極楽鳥 見た目がおいしそうなのは丸焼きにすべし。この論理から必然的に導かれるのは、見た目がまずそうな者は日干しにすべし、という結論です。

シラノ以外の全員 おー！（歓声）

ケプラー=極楽鳥 よってわたくしは（シラノを指し）この者に、日干しの刑、別名、「世にも悲しい死に方」を求刑いたします！

シラノ以外の全員 おー！！（大歓声）

シラノ（進み出て）世にも悲しい死に方とは、次のような死刑の方法だった。すなわち、罪人のまわりに死刑執行人たちが群がり、その耳に陰惨で悲劇的な歌をかわるがわるそそぎこむのだ。するとその歌の苦い汁が心の臓をしめつけ、罪人は窒息し、脳みそがひからびて死んでしまう、と、こういうわけなのである。

鳥たち、シラノのまわりに群がる。

ケプラー=極楽鳥（歌う）目を閉じて何も見えず

目を閉じて何も見えず

目を閉じて何も見えず

目を閉じて何も見えず

ああ 目を閉じて なんにも見えないよ

ああ 目を閉じて なんにも見えないよ

ロクサーヌ=かささぎ（歌う）あなたは もう 忘れたかしら

あなたは もう 忘れたかしら

あなたは もう 忘れたかしら

あなたは もう 忘れたかしら

忘れたかしらって 言ったのよ

ル・ブレ=鳩&ラグノー=おうむ（歌う）ちっちゃな頃から悪ガキで

ちっちゃな頃から悪ガキで

ちっちゃな頃から悪ガキで

ちっちゃな頃から悪ガキで

全員（歌う）ああ ちっちゃな頃から悪ガキで

ちっちゃな頃から悪ガキで

ちっちゃな頃から悪ガキで

大きくなったら ただの人

シラノ（皆のあいだから顔を出して）こうして、わたしの死刑はとどこおりなく執行されつつあった。ところが、その歌がふと途切れたかと思うと、雲間から、はっきりと声が聞こえたのである。

ラグノー=おうむ 赦免だ！ 赦免だ！ 赦免だ！

鳥たち、輪を少し広げる。

#12a 世にも悲しい三連
発その1「鼻」

#12b 世にも悲しいメド
レーその2「神田川」

#12c 世にも悲しいメド
レーその3「ギザギザハ
ートの子守唄」

ル・ブレ=鳩 (シラノにラグノー=おうむを示し) 猿よ、この者の嘆願によって、そなたの命は救われたぞ。この者を覚えておるか？

シラノ ええ、どこかで会ったような気がするのですが……

ラグノー=おうむ (シラノにかけよって) 先生、わたしをお忘れですか？

シラノ おお、もしやおまえは、いつかわたしが鳥籠を開けて逃がしてやった……

ラグノー=おうむ そうです、わたしです。シラノ先生のいとこの、ロクサーヌお嬢さまの飼っていたおうむです！

全員 つながった！！

喜びのダンス。

ひとしきり踊った後、皆、鳥の衣装を脱ぐ。

#13 歓喜の歌…「フニクリ・フニクラ」

ル・ブレ いやー、どうなることかと思ったよ。

シラノ おれも。

ケプラー いちばんほっとしてるのは、座長さんでしょうねえ。

ロクサーヌ それ、あなたでしょ。

ケプラー あ、そうでした。(ほがらか)

ロクサーヌ (シラノに) なんて(この人と)友だちな。

シラノ いや、こう見えてもね、おれはケプラーさんを心から尊敬してるんだよ。地動説っていうのは、じつは古代ギリシアからちらほらあったの。だけどこの人は、人類の歴史始まって以来、誰ひとり気がつかなかったことを発見しちゃったんだ。

ロクサーヌ (わくわく) えー、何、何？

ケプラー (胸をはって) はい、あのですね、じつは、太陽系は、楕円なんです。

ロクサーヌ 楕円？

ケプラー はい。

ロクサーヌ ……そのどこがそんなにスゴイの？

シラノ だってね、太陽が回ってるにしろ地球が回ってるにしろ、回るっていえば円、まんまるでしょうっていう点については、だあれも疑ったことがなかったの。ガリレイさんでさえもね。

ケプラー (しみじみと) わたしの書いた本、ガリレイさんに送ってあげたんですけどね、そこも完全にスルーされましたねえ。

ラグノー ガリレイさん、ホンット、ペケ(×)ですね。

ロクサーヌ じゃあ、どうして、ケプラーさんは楕円だって気がついたの？

ケプラー (熱心に) あのですね、惑星の軌道を円と仮定すると、わたしの師匠のティコ・ブラーエ先生の天文観測データとどうしても合わないんです。先生が生涯かけて集めた、膨大な、詳細な、貴重なデータなんですよ！ じゃあ、まず火星の軌道からご説明しましょうか……

ル・ブレ ケプラーさん、あんまりオタク、じゃなかった、専門的な話をされても、誰もわからないから。

ケプラー すみません。わたし、感激屋で、思いついたことをついなんでもしゃべっち

やうんですけれども、それはわたしが生まれたときに、水星が火星に対して90度の位置にあったからなんですね。

全員 ……

シラノ 話わやわやになってるから、わかりやすく説明するね。(呼ぶ) ざっちゃん。

助手、黒板を持ってくる。

シラノ (ル・ブレに黒板を持たせ) ちょっとこれ持ってて。(その黒板に楕円を描く) こんでしょ。

ケプラー 太陽系の惑星の軌道を、円ではなく、楕円だと仮定してみたんです。(黒板を指し) 楕円ですから、焦点が二つあるんですね、その二つのうち一つが太陽だということです。そうしたらですね——(うっとり) 何もかも、しっくり行ったんです。

ル・ブレ しっくり行ったんだ。

ケプラー (うっとり) ええ、納得できました。

ル・ブレ (にこにこ) よかったね。

ケプラー (にこにこ) はい!

ル・ブレ (にこにこ) おめでとう!!

ケプラー (にこにこ) ありがとう!!

ラグノー (にこにこ拍手)

ロクサーヌ あのね、(黒板を指し) この二つの点のうち、一つが、太陽なんですよ。

ケプラー (にこにこ) はい。

ロクサーヌ もう一つには何があるの?

ケプラー (にこにこ) 何ありません。

全員 ……

ロクサーヌ 何もないの……?

シラノ そう、その、何もないもうひとつの点を発見しちゃったっていうところがね、おれはものすごく偉いと思うわけ。

ロクサーヌ (シラノに) ここ、笑うところ?

シラノ ちがう、ちがう。まじめな話よ。いいかい、おれが思うに、人間にとって大事なものは、この「何もないのに何かがある」っていうはるかかなたの一点を、見つけることなんだ。そこに何かがあると仮定すると、すべてがしっくり行く一点をね。

ケプラー 大切なことは、目に見えないんです。

ロクサーヌ え? まさか……(ル・ブレ=星の王子さまを見上げる)

全員 つながった!!!

喜びのダンス。(助手も。)

シラノ 見えるもの、目の前にあるものだけ見てると、どうなるかわかる? 話がちい～っちゃくなっちゃうんだよ。

ル・ブレ なるほどね。

シラノ 進歩とか、発展とか言うけど、べつに人類は進歩も発展もしなくていいん

#13 「フニクリ・フニクラ」

じゃないかとおれは思ってる。ただね、ずーっと同じ、ちっちゃいオハナシにしがみついているのは、みっともない。カッコわるいんだよな。だから、歴史には、(ケプラーの肩をたたいて) ケプラーさんやおれみたいな天才が、必要なの。たま〜にね。

ラグノー ひゅうひゅう！ (はやす)

シラノ そんな天才なのに、かわいそうだよなあ、おれたち。ね、ケプラーさん。生涯びんぼう。

ロクサーヌ そうなの？

ケプラー (しみじみと) ええ。ドイツの皇帝のおかかえ学者だったんですけども、その皇帝さんが困った人で、ぜんぜんお給料を払ってくれなかったんです。

ロクサーヌ&ル・ブレ&ラグノー ひどい！

ロクサーヌ シラノくんはどうしてびんぼうだったの？

シラノ おれ？ おれは、やせても枯れても人には頼らないって主義だから。

ラグノー 何言ってるんですか、先生はアホをやりすぎて、パトロンに見はなされただけじゃないですか。

シラノ おいおい、言うなよ、そんなホントのこと。

ケプラー (熱心に) そうだ、わたしたち「スゴイ本を書いたのに誰も評価してくれなくて生涯びんぼうだったヒト同盟」も結成しましょうか、シラノさん！

ル・ブレ あなた結成するの好きだねえ。

ケプラー (しみじみ) でもまあ、しかたないですよ。わたしたちが生きていたのは、戦争の時代でしたから。

ロクサーヌ 戦争？

シラノ 三十年戦争ってやつだよ。この人(ケプラー)の仕えていたドイツの皇帝と貴族たちのあいだで始まった争いが、結局ヨーロッパ全土を巻きこんでいったんだ……

助手を残して、全員退場。

助手 “いくさ”だといえは 聞こえはいいが

やみくもに進む 行く先はどこだ

考えるひまも 与えられないで

はいずりのたうち まるでケダモノだ

始めたやつら 笑って見てる 死ぬのはいつも おれたちだけだ

“さだめ”だといえは 聞こえはいいが

防げたはずだろ お偉いあんたら

おれにはないんだ 戦う理由は

目の前の君を 殺す理由は

始めたやつら 笑って見てる 死ぬのはいつも おれたちだけだ

転換。

#14 「戦争の歌」…シャ
ブリエ「ジャン王の御前
試合」